

平成25年度(2013年度)

予算概要

箕面市

平成25年度（2013年度）予算総括表

単位：千円、%

会 計		平成25年度 (2013年度) A	平成24年度 (2012年度) B	増 減	
				増 減 額 C (A-B)	増 減 率 C/B
一 般 会 計		39,160,000	38,070,000	1,090,000	2.9
特 別 会 計	競 艇 事 業 費	103,800,000	50,600,000	53,200,000	105.1
	国 民 健 康 保 険 事 業 費	14,966,820	13,954,220	1,012,600	7.3
	牧 落 住 宅 団 地 事 業 費	0	22,328	▲ 22,328	皆減
	財 産 区 事 業 費	2,093,762	2,105,552	▲ 11,790	▲ 0.6
	介 護 保 険 事 業 費	8,254,602	7,290,494	964,108	13.2
	公 共 用 地 先 行 取 得 事 業 費	324,538	610,186	▲ 285,648	▲ 46.8
	後 期 高 齢 者 医 療 事 業 費	1,715,657	1,722,771	▲ 7,114	▲ 0.4
特別会計の計		131,155,379	76,305,551	54,849,828	71.9
企 業 会 計	病 院 事 業 会 計	9,561,229	9,250,231	310,998	3.4
	水 道 事 業 会 計	3,778,056	3,504,105	273,951	7.8
	公 共 下 水 道 事 業 会 計	2,451,859	2,651,628	▲ 199,769	▲ 7.5
	企業会計の計		15,791,144	15,405,964	385,180
合 計		186,106,523	129,781,515	56,325,008	43.4

***** 平成25年度予算の主な変化 *****

《一般会計・歳入》

- ・ 個人所得や企業の業績が回復傾向にあることなどにより市民税は増加が見込まれるものの、固定資産の評価額の下落などから、市税収入全体では約1億円減少する見通しです。
- ・ 施設整備等に伴う積立基金の取り崩しを必要最小限度の約7.7億円に抑制し、将来の投資に備え交通施設整備基金などに約7.8億円積み立てた結果、基金は約5百万円増加する見通しです。
- ・ 臨時財政対策債を限度額まで全額発行しないなど、市債発行額を前年度から約3億円減らし約22億円としました。その結果、市債残高は約7億円減少する見込みです。

《一般会計・歳出》

- ・ 北大阪急行線延伸整備に向けた交通施設整備基金の積立などにより、土木費は約2億円、積立金は約6億円増加しました。
- ・ 「小野原多世代地域交流センター」・「多文化交流センター」の建設完了に伴い、総務費は約9億円減少しました。
- ・ 生活保護世帯の増加や保育所入所児童数の増加などにより、扶助費は約9億円増加しました。
- ・ 中学校給食室の整備などにより、教育費は約18億円、普通建設事業費は約3億円増加しました。

《全会計》

- ・ ポートピア梅田の管理施行者が都市競艇組合から箕面市に交代(3年毎)することに伴い、特別会計競艇事業費の予算規模が大幅に拡大することから、全会計の予算総額が約563億円増加しました。

1 平成25年度（2013年度）各会計予算額表

（1）一般会計

単位：千円、%

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 市 税	21,835,000	55.8	21,947,000	57.6	▲ 112,000	▲ 0.5
	02 地 方 譲 与 税	238,000	0.6	228,000	0.6	10,000	4.4
	03 利 子 割 交 付 金	100,000	0.3	113,000	0.3	▲ 13,000	▲ 11.5
	04 配 当 割 交 付 金	75,000	0.2	67,000	0.2	8,000	11.9
	05 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	17,000	0.0	22,000	0.0	▲ 5,000	▲ 22.7
	06 地 方 消 費 税 交 付 金	1,107,000	2.8	1,103,000	2.9	4,000	0.4
	07 ゴルフ場利用税交付金	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
	08 自動車取得税交付金	78,000	0.2	78,000	0.2	0	0.0
	09 地 方 特 例 交 付 金	121,000	0.3	136,000	0.3	▲ 15,000	▲ 11.0
	10 地 方 交 付 税	1,070,000	2.7	870,000	2.3	200,000	23.0
	11 交通安全対策特別交付金	25,000	0.1	25,000	0.1	0	0.0
	12 分担金及び負担金	595,645	1.5	593,470	1.6	2,175	0.4
	13 使用料及び手数料	632,374	1.6	614,873	1.6	17,501	2.8
	14 国 庫 支 出 金	5,218,684	13.3	5,179,597	13.6	39,087	0.8
	15 府 支 出 金	3,042,043	7.8	2,312,697	6.1	729,346	31.5
	16 財 産 収 入	554,670	1.4	522,239	1.4	32,431	6.2
	17 寄 附 金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	18 繰 入 金	770,279	2.0	636,045	1.7	134,234	21.1
	19 繰 越 金	1,000	0.0	1,000	0.0	0	0.0
	20 諸 収 入	1,464,504	3.7	1,098,878	2.9	365,626	33.3
	21 市 債	2,212,800	5.7	2,520,200	6.6	▲ 307,400	▲ 12.2
	合 計	39,160,000	100.0	38,070,000	100.0	1,090,000	2.9

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A - B)	C / B
歳出 (目的別)	01 議会費	430,053	1.1	472,852	1.2	▲ 42,799	▲ 9.1
	02 総務費	4,677,442	11.9	5,566,290	14.6	▲ 888,848	▲ 16.0
	03 民生費	15,815,319	40.4	15,815,769	41.6	▲ 450	0.0
	04 衛生費	3,817,777	9.7	3,836,191	10.1	▲ 18,414	▲ 0.5
	05 労働費	73,262	0.2	127,584	0.3	▲ 54,322	▲ 42.6
	06 農林水産業費	99,810	0.3	89,032	0.2	10,778	12.1
	07 商工費	201,054	0.5	206,127	0.5	▲ 5,073	▲ 2.5
	08 土木費	3,566,773	9.1	3,414,611	9.0	152,162	4.5
	09 消防費	1,221,637	3.1	1,162,395	3.1	59,242	5.1
	10 教育費	6,129,772	15.7	4,294,597	11.3	1,835,175	42.7
	11 災害復旧費	20,000	0.1	20,000	0.1	0	0.0
	12 公債費	3,056,351	7.8	3,013,802	7.9	42,549	1.4
	13 諸支出金	750	0.0	750	0.0	0	0.0
	14 予備費	50,000	0.1	50,000	0.1	0	0.0
	合計	39,160,000	100.0	38,070,000	100.0	1,090,000	2.9
歳出 (性質別)	人件費	9,151,846	23.4	9,356,734	24.6	▲ 204,888	▲ 2.2
	物件費	6,726,499	17.2	6,932,781	18.2	▲ 206,282	▲ 3.0
	維持補修費	471,202	1.2	560,514	1.5	▲ 89,312	▲ 15.9
	扶助費	8,670,600	22.1	7,771,863	20.4	898,737	11.6
	補助費等	3,447,780	8.8	3,641,451	9.6	▲ 193,671	▲ 5.3
	公債費	3,056,351	7.8	3,013,802	7.9	42,549	1.4
	積立金	775,053	2.0	151,150	0.4	623,903	412.8
	出資金	413,273	1.1	399,046	1.0	14,227	3.6
	繰出金	2,807,487	7.2	2,898,877	7.6	▲ 91,390	▲ 3.2
	普通建設事業費	3,569,909	9.1	3,273,782	8.6	296,127	9.0
	災害復旧事業費	20,000	0.0	20,000	0.1	0	0.0
	予備費	50,000	0.1	50,000	0.1	0	0.0
	合計	39,160,000	100.0	38,070,000	100.0	1,090,000	2.9

(2) 特別会計競艇事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 競艇事業収入	29,535,998	28.4	41,295,257	81.6	▲ 11,759,259	▲ 28.5
	02 財産収入	3	0.0	3	0.0	0	0.0
	03 寄附金	190,008	0.2	292,320	0.6	▲ 102,312	▲ 35.0
	04 繰入金	1,257,357	1.2	634,000	1.2	623,357	98.3
	05 繰越金	600,000	0.6	800,000	1.6	▲ 200,000	▲ 25.0
	06 諸収入	72,216,634	69.6	7,578,420	15.0	64,638,214	852.9
	合計	103,800,000	100.0	50,600,000	100.0	53,200,000	105.1
歳出	01 競艇事業費	29,999,791	28.9	41,389,644	81.8	▲ 11,389,853	▲ 27.5
	02 諸支出金	73,196,968	70.5	8,668,006	17.1	64,528,962	744.4
	03 予備費	603,241	0.6	542,350	1.1	60,891	11.2
	合計	103,800,000	100.0	50,600,000	100.0	53,200,000	105.1

(3) 特別会計国民健康保険事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 国民健康保険料	4,441,075	29.7	3,473,371	24.9	967,704	27.9
	02 使用料及び手数料	1,057	0.0	1,201	0.0	▲ 144	▲ 12.0
	03 国庫支出金	2,905,505	19.4	2,713,897	19.4	191,608	7.1
	04 療養給付費等交付金	534,961	3.6	760,249	5.4	▲ 225,288	▲ 29.6
	05 前期高齢者交付金	3,927,060	26.2	3,430,300	24.6	496,760	14.5
	06 府支出金	799,164	5.3	721,022	5.2	78,142	10.8
	07 共同事業交付金	1,362,506	9.1	1,303,959	9.3	58,547	4.5
	08 財産収入	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	09 繰入金	989,170	6.6	915,145	6.6	74,025	8.1
	10 諸収入	6,321	0.1	635,075	4.6	▲ 628,754	▲ 99.0
合計	14,966,820	100.0	13,954,220	100.0	1,012,600	7.3	
歳出	01 総務費	199,468	1.4	213,897	1.6	▲ 14,429	▲ 6.7
	02 保険給付費	10,193,171	68.1	9,785,366	70.1	407,805	4.2
	03 後期高齢者支援金等	1,963,349	13.1	1,607,261	11.5	356,088	22.2
	04 前期高齢者納付金等	2,293	0.0	4,686	0.0	▲ 2,393	▲ 51.1
	05 老人保健拠出金	1,200	0.0	1,200	0.0	0	0.0
	06 介護納付金	692,988	4.6	659,359	4.7	33,629	5.1
	07 共同事業拠出金	1,755,140	11.7	1,504,858	10.8	250,282	16.6
	08 保健事業費	143,109	1.0	160,492	1.2	▲ 17,383	▲ 10.8
	09 基金積立金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	10 諸支出金	14,101	0.1	15,100	0.1	▲ 999	▲ 6.6
	11 予備費	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
合計	14,966,820	100.0	13,954,220	100.0	1,012,600	7.3	

(4) 特別会計財産区事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 財産区収入	2,093,762	100.0	2,105,552	100.0	▲ 11,790	▲ 0.6
	合計	2,093,762	100.0	2,105,552	100.0	▲ 11,790	▲ 0.6
歳出	01 財産費	2,093,762	100.0	2,105,552	100.0	▲ 11,790	▲ 0.6
	合計	2,093,762	100.0	2,105,552	100.0	▲ 11,790	▲ 0.6

(5) 特別会計介護保険事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 保険料	1,794,472	21.7	1,705,824	23.4	88,648	5.2
	02 使用料及び手数料	121	0.0	2	0.0	119	5,950.0
	03 国庫支出金	1,619,821	19.6	1,404,231	19.3	215,590	15.4
	04 支払基金交付金	2,275,747	27.6	1,979,524	27.1	296,223	15.0
	05 府支出金	1,177,266	14.3	1,063,309	14.6	113,957	10.7
	06 財産収入	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	07 繰入金	1,386,997	16.8	1,137,378	15.6	249,619	21.9
	08 繰越金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	09 諸収入	176	0.0	224	0.0	▲ 48	▲ 21.4
	合計	8,254,602	100.0	7,290,494	100.0	964,108	13.2
歳出	01 総務費	247,238	3.0	259,379	3.6	▲ 12,141	▲ 4.7
	02 保険給付費	7,807,756	94.6	6,773,077	92.9	1,034,679	15.3
	03 地域支援事業費	195,020	2.4	169,168	2.3	25,852	15.3
	04 基金積立金	1	0.0	84,866	1.2	▲ 84,865	▲ 100.0
	05 諸支出金	2,587	0.0	2,004	0.0	583	29.1
	06 予備費	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
	合計	8,254,602	100.0	7,290,494	100.0	964,108	13.2

(6) 特別会計公共用地先行取得事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 使用料及び手数料	14,354	4.4	14,619	2.4	▲ 265	▲ 1.8
	02 繰入金	310,182	95.6	595,565	97.6	▲ 285,383	▲ 47.9
	03 繰越金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	04 諸収入	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	合計	324,538	100.0	610,186	100.0	▲ 285,648	▲ 46.8
歳出	01 公債費	324,538	100.0	610,186	100.0	▲ 285,648	▲ 46.8
	合計	324,538	100.0	610,186	100.0	▲ 285,648	▲ 46.8

(7) 特別会計後期高齢者医療事業費

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
歳入	01 後期高齢者医療保険料	1,491,674	87.0	1,494,469	86.8	▲ 2,795	▲ 0.2
	02 使用料及び手数料	81	0.0	81	0.0	0	0.0
	03 繰入金	221,898	12.9	226,217	13.1	▲ 4,319	▲ 1.9
	04 繰越金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	05 諸収入	2,003	0.1	2,003	0.1	0	0.0
	合計	1,715,657	100.0	1,722,771	100.0	▲ 7,114	▲ 0.4
歳出	01 総務費	38,421	2.3	38,271	2.3	150	0.4
	02 後期高齢者医療広域連合 納付金	1,674,736	97.6	1,682,000	97.6	▲ 7,264	▲ 0.4
	03 諸支出金	2,000	0.1	2,000	0.1	0	0.0
	04 予備費	500	0.0	500	0.0	0	0.0
	合計	1,715,657	100.0	1,722,771	100.0	▲ 7,114	▲ 0.4

(8) 病院事業会計

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
収入	01 病院事業収益	8,371,342	95.3	8,181,002	95.4	190,340	2.3
	02 資本的収入	412,778	4.7	398,882	4.6	13,896	3.5
	合計	8,784,120	100.0	8,579,884	100.0	204,236	2.4
支出	01 病院事業費用	8,512,441	89.0	8,443,358	91.3	69,083	0.8
	02 資本的支出	1,048,788	11.0	806,873	8.7	241,915	30.0
	合計	9,561,229	100.0	9,250,231	100.0	310,998	3.4

(9) 水道事業会計

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
収入	01 水道事業収益	2,759,522	84.9	2,802,383	89.2	▲ 42,861	▲ 1.5
	02 資本的収入	489,102	15.1	338,145	10.8	150,957	44.6
	合計	3,248,624	100.0	3,140,528	100.0	108,096	3.4
支出	01 水道事業費用	2,633,408	69.7	2,659,081	75.9	▲ 25,673	▲ 1.0
	02 資本的支出	1,144,648	30.3	845,024	24.1	299,624	35.5
	合計	3,778,056	100.0	3,504,105	100.0	273,951	7.8

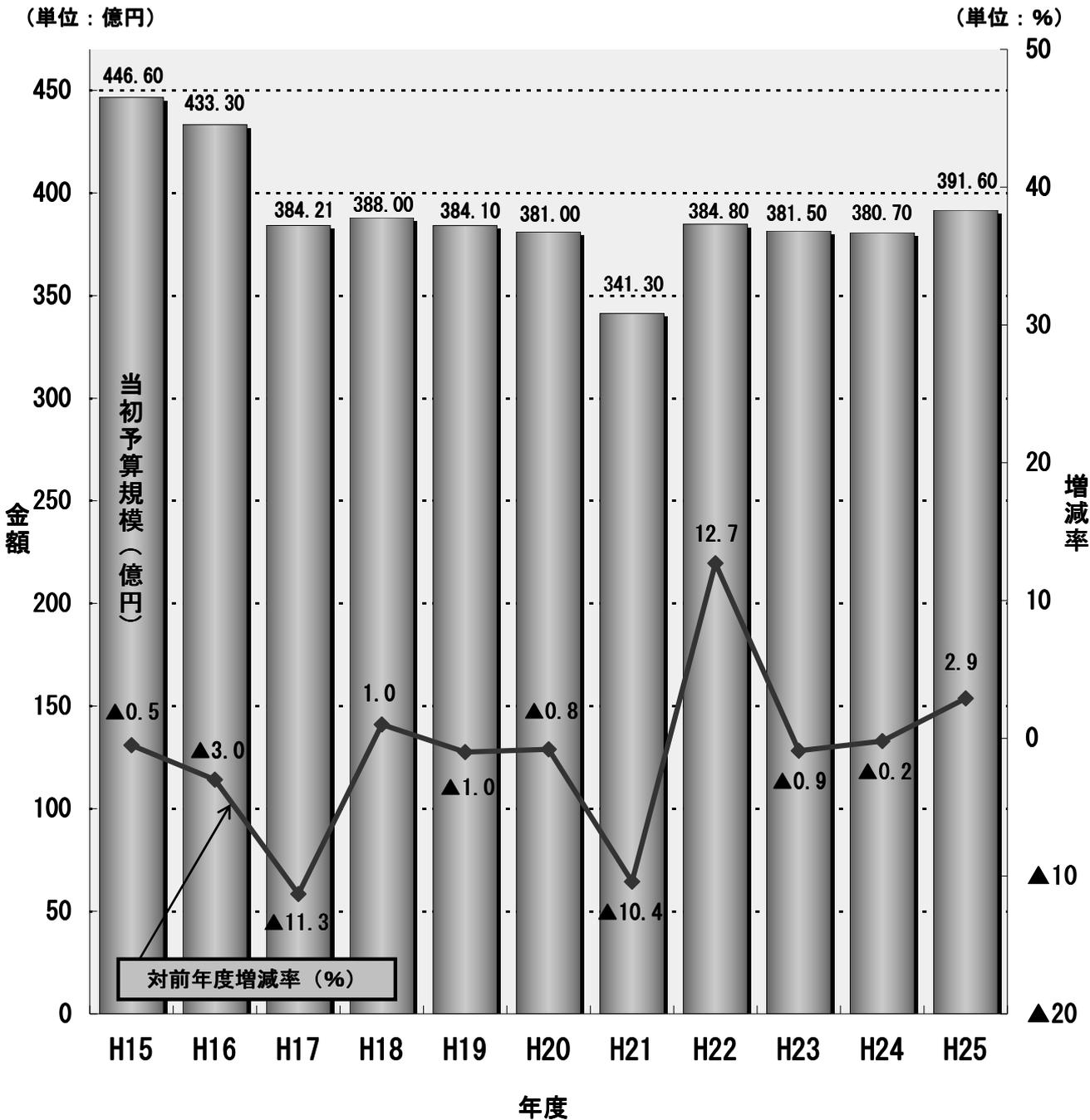
(10) 公共下水道事業会計

区分	款	平成25年度 (2013年度)		平成24年度 (2012年度)		増減	
		予算額 A	構成比	予算額 B	構成比	C (A-B)	C/B
収入	01 下水道事業収益	1,855,790	83.3	1,850,250	76.4	5,540	0.3
	02 資本的収入	371,787	16.7	572,157	23.6	▲ 200,370	▲ 35.0
	合計	2,227,577	100.0	2,422,407	100.0	▲ 194,830	▲ 8.0
支出	01 下水道事業費用	1,673,657	68.3	1,666,294	62.8	7,363	0.4
	02 資本的支出	778,202	31.7	985,334	37.2	▲ 207,132	▲ 21.0
	合計	2,451,859	100.0	2,651,628	100.0	▲ 199,769	▲ 7.5

一般会計予算の状況

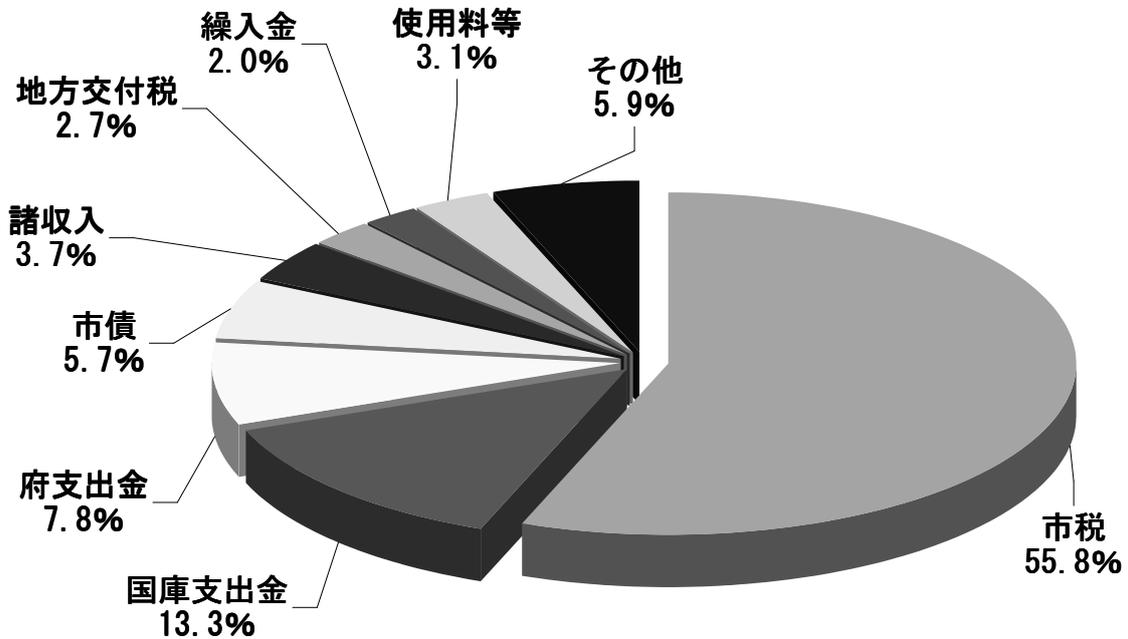
2 平成25年度（2013年度）一般会計当初予算の状況

(1) 予算規模の推移



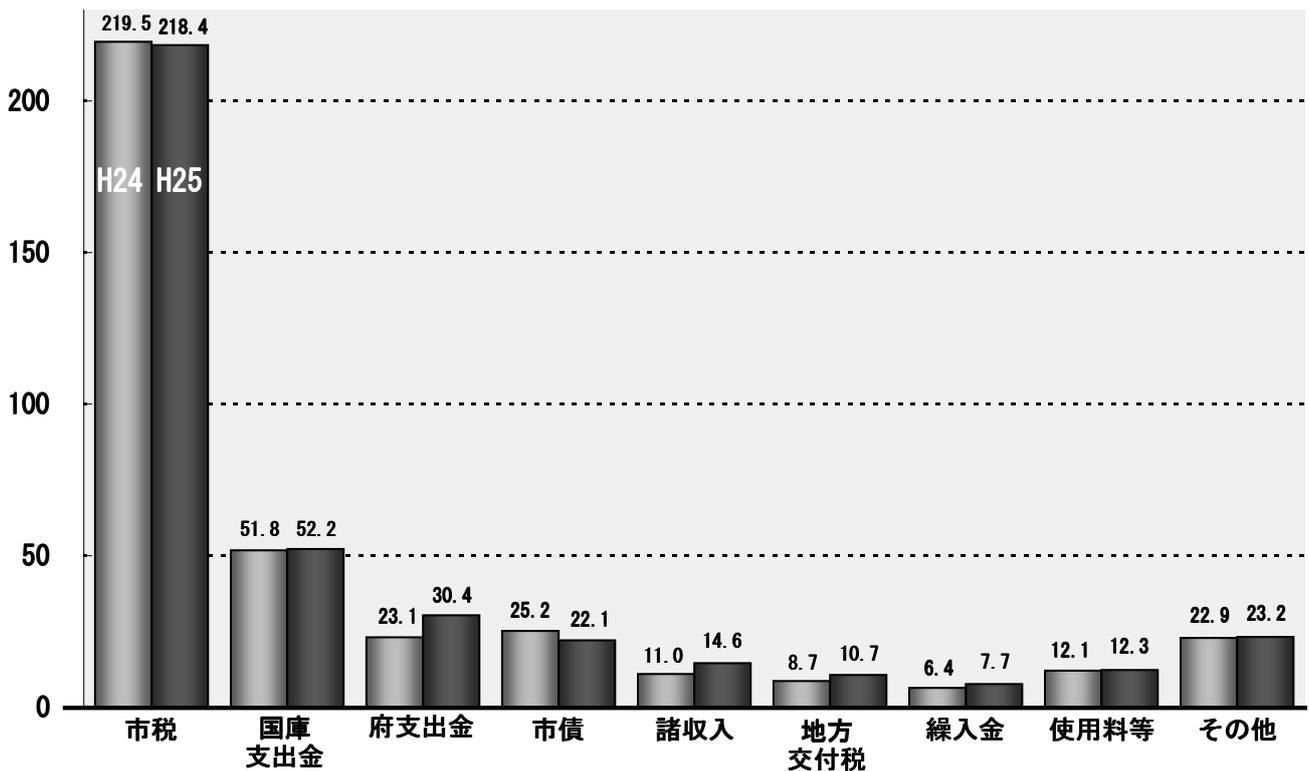
(2) 歳入予算について

① 構成比（歳入）



② 予算額の前年度との比較（歳入）

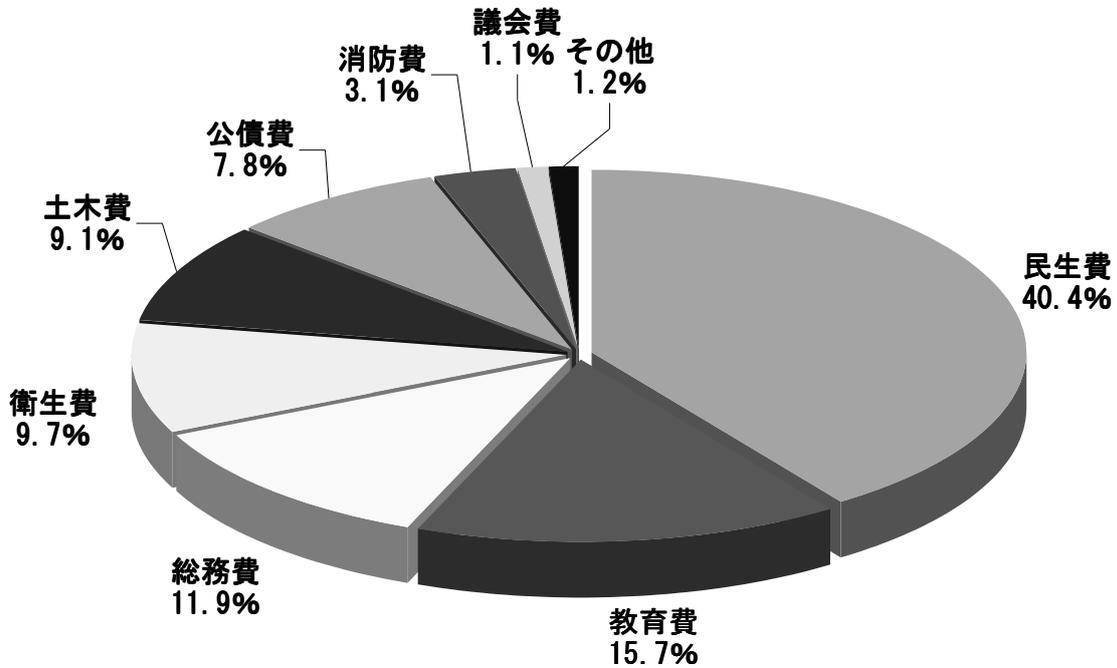
(単位：億円)



※ 使用料等は、使用料及び手数料、分担金及び負担金

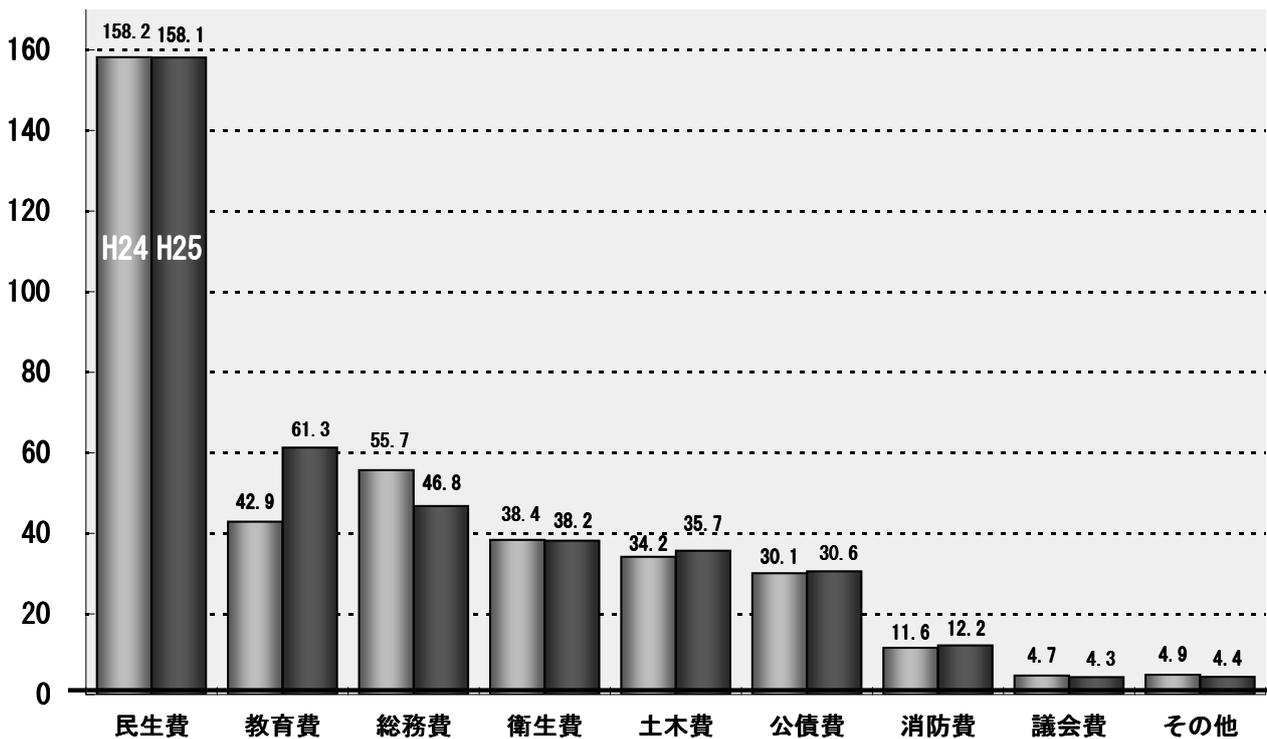
（３） 歳出予算（目的別）について

① 構成比（目的別）



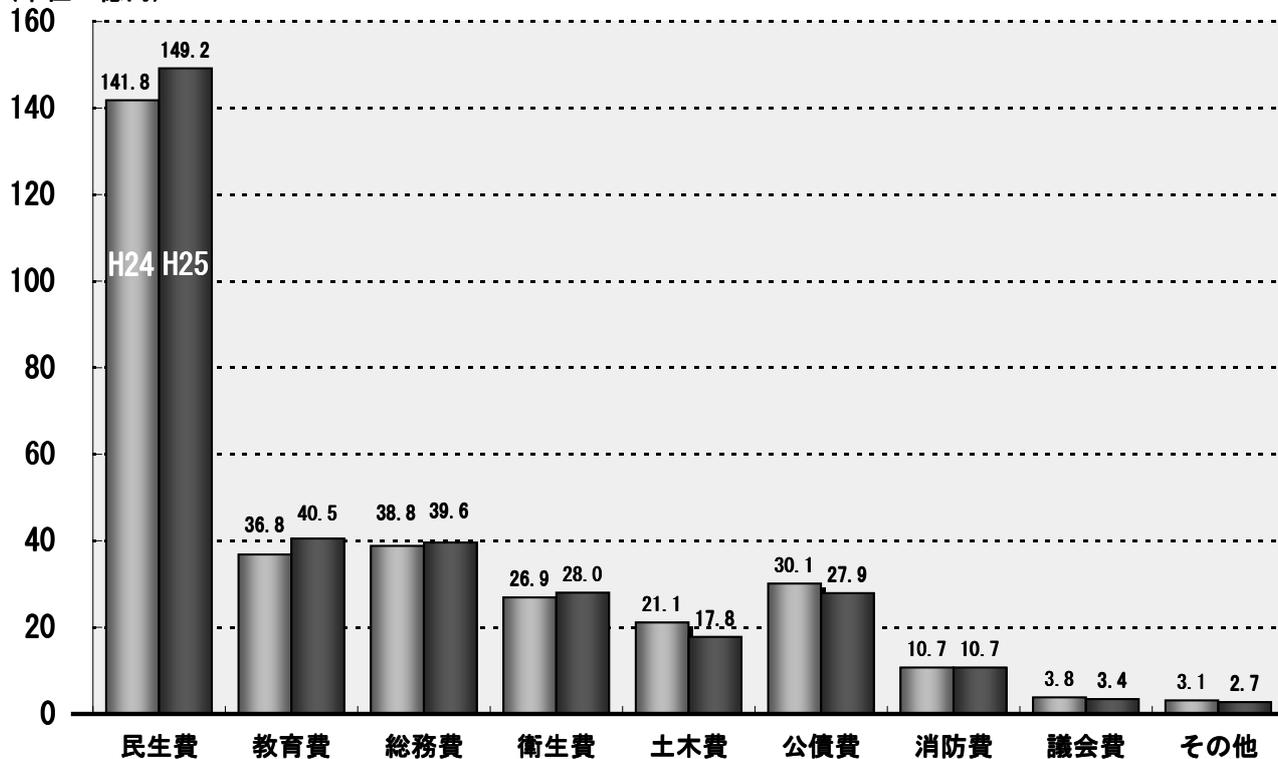
② 予算額の前年度との比較（目的別）

（単位：億円）



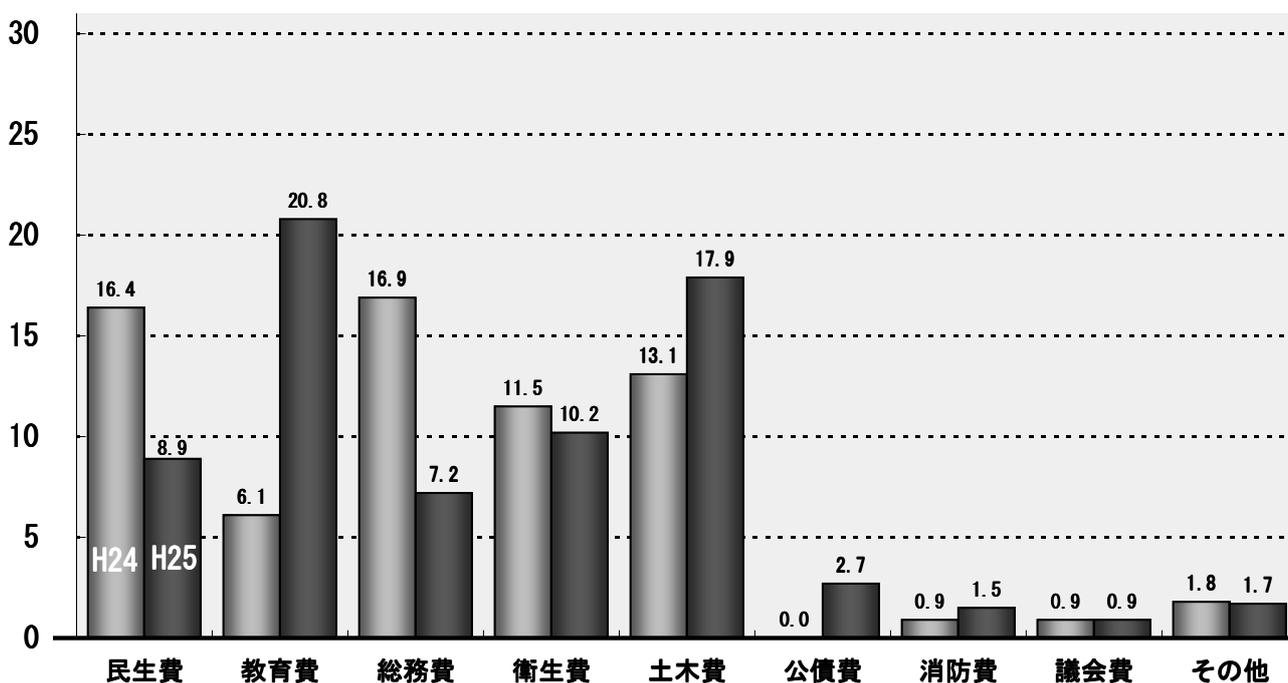
③ 経常費の予算額（目的別・前年度比較）

（単位：億円）



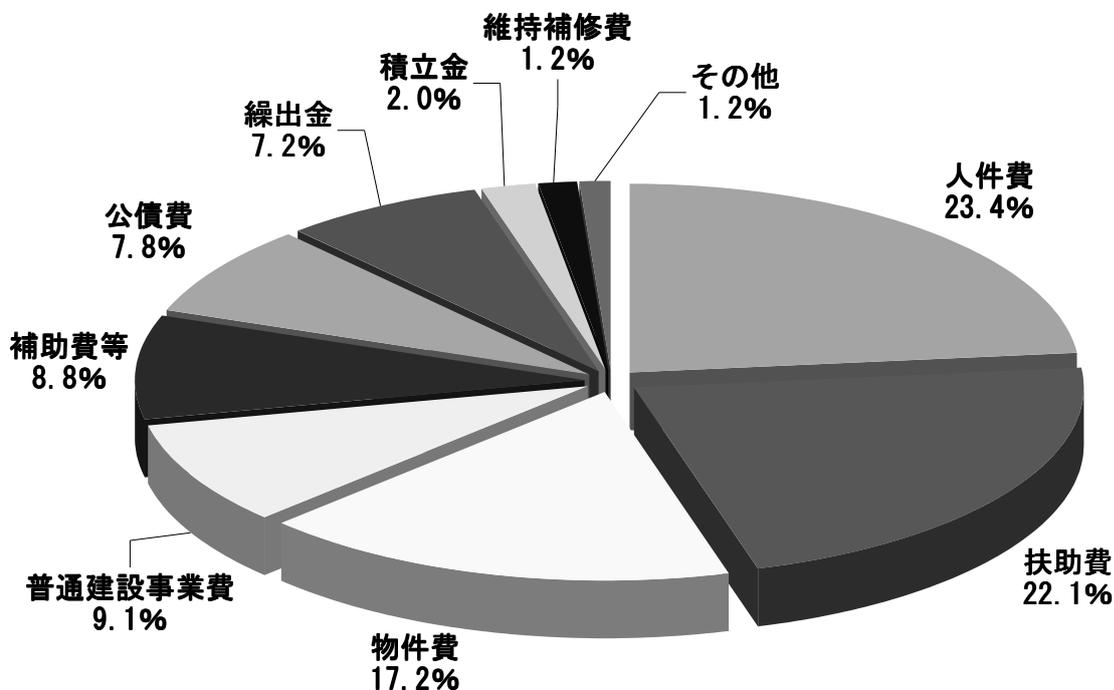
④ 臨時費の予算額（目的別・前年度比較）

（単位：億円）



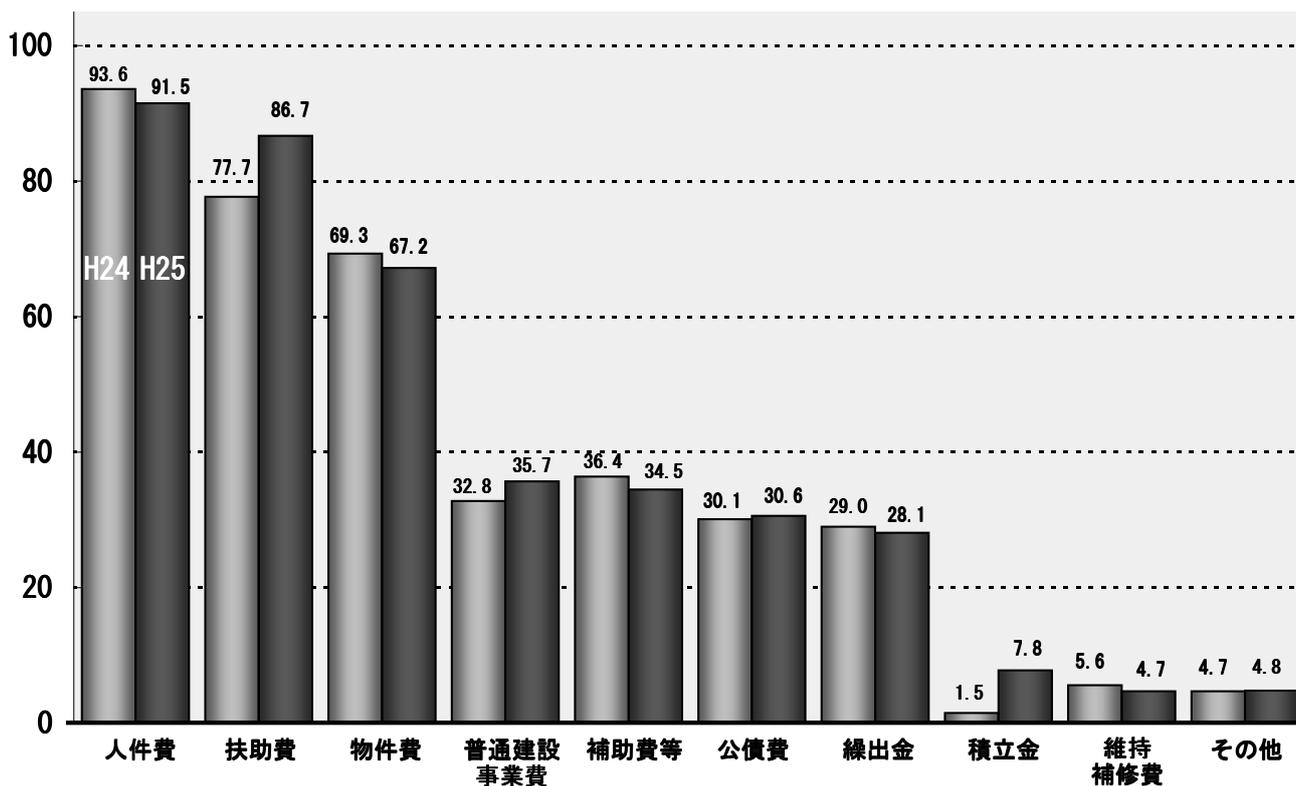
（４） 歳出予算（性質別）について

① 構成比（性質別）



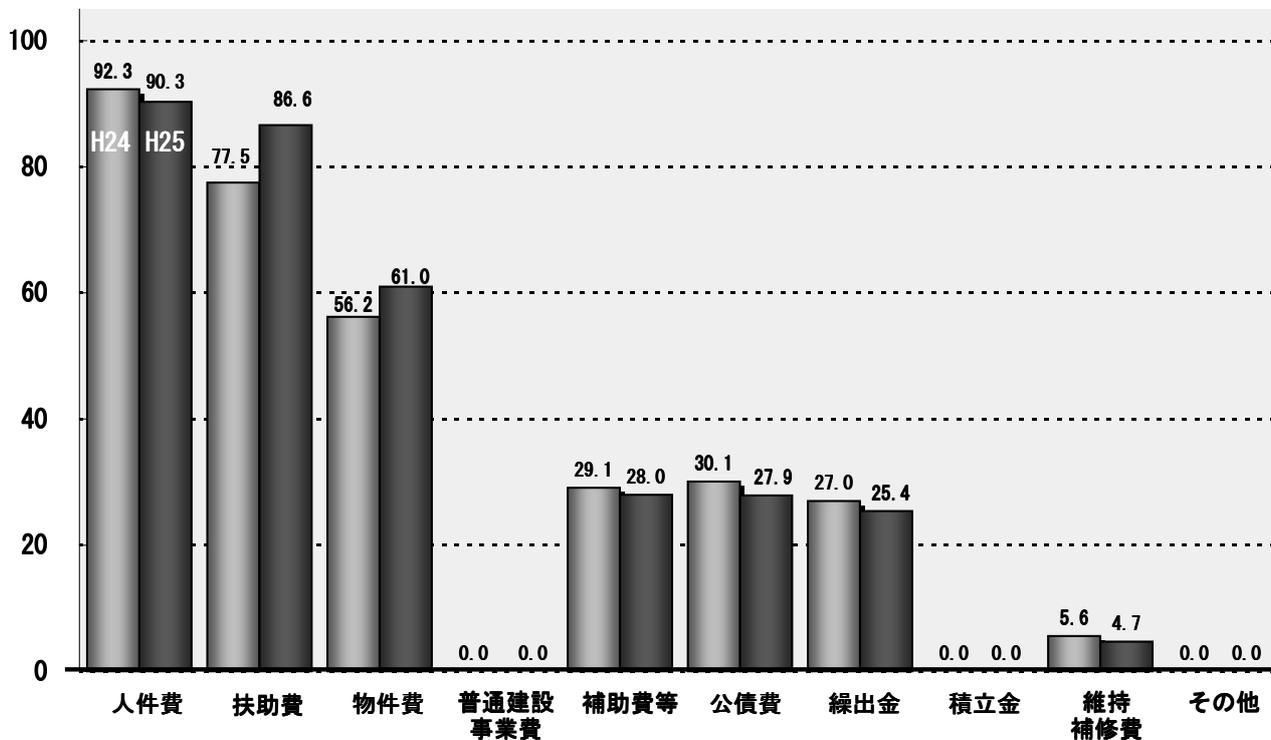
② 予算額の前年度との比較（性質別）

（単位：億円）



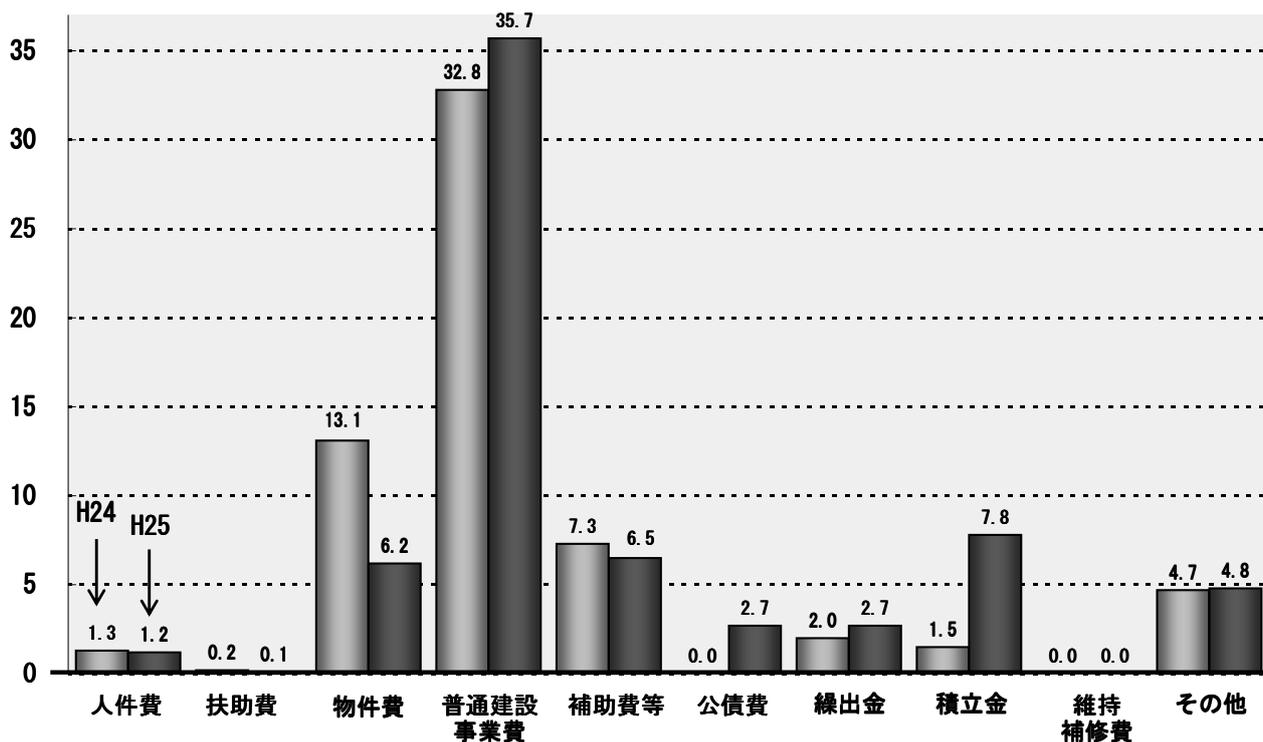
③ 経常費の予算額（性質別・前年度比較）

（単位：億円）



④ 臨時費の予算額（性質別・前年度比較）

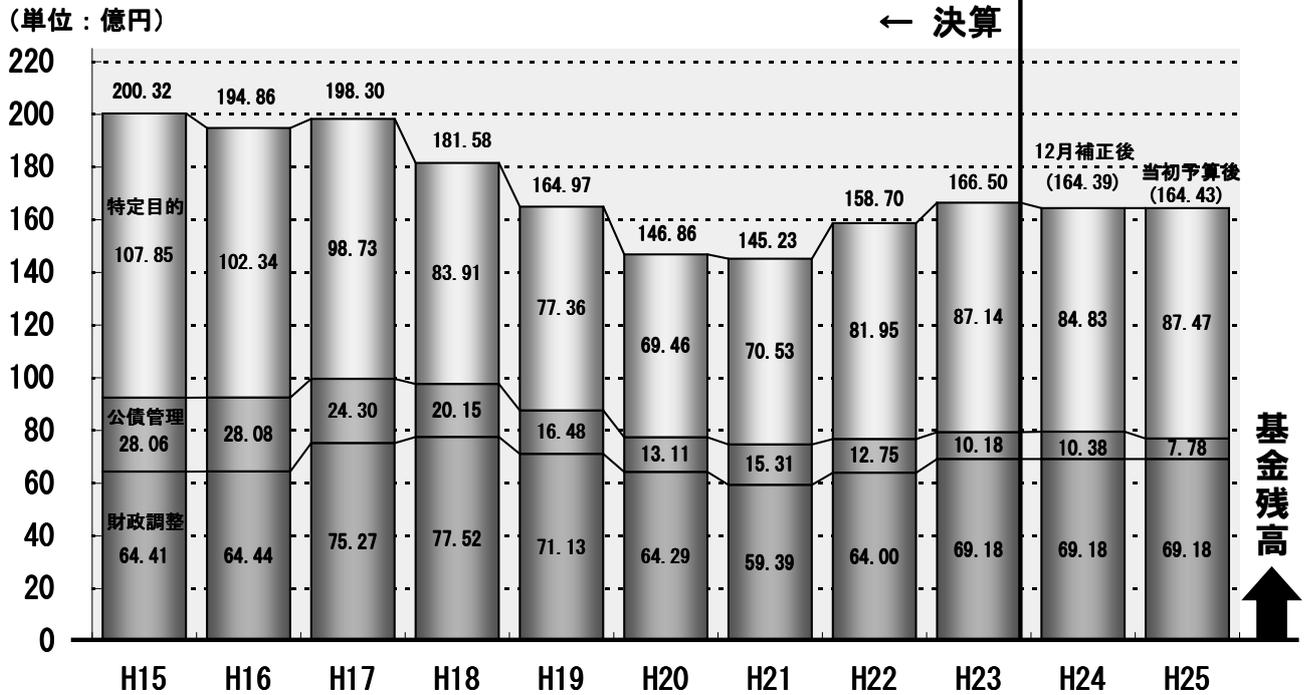
（単位：億円）



3 積立基金・市債・経常収支比率の状況（普通会計ベース）

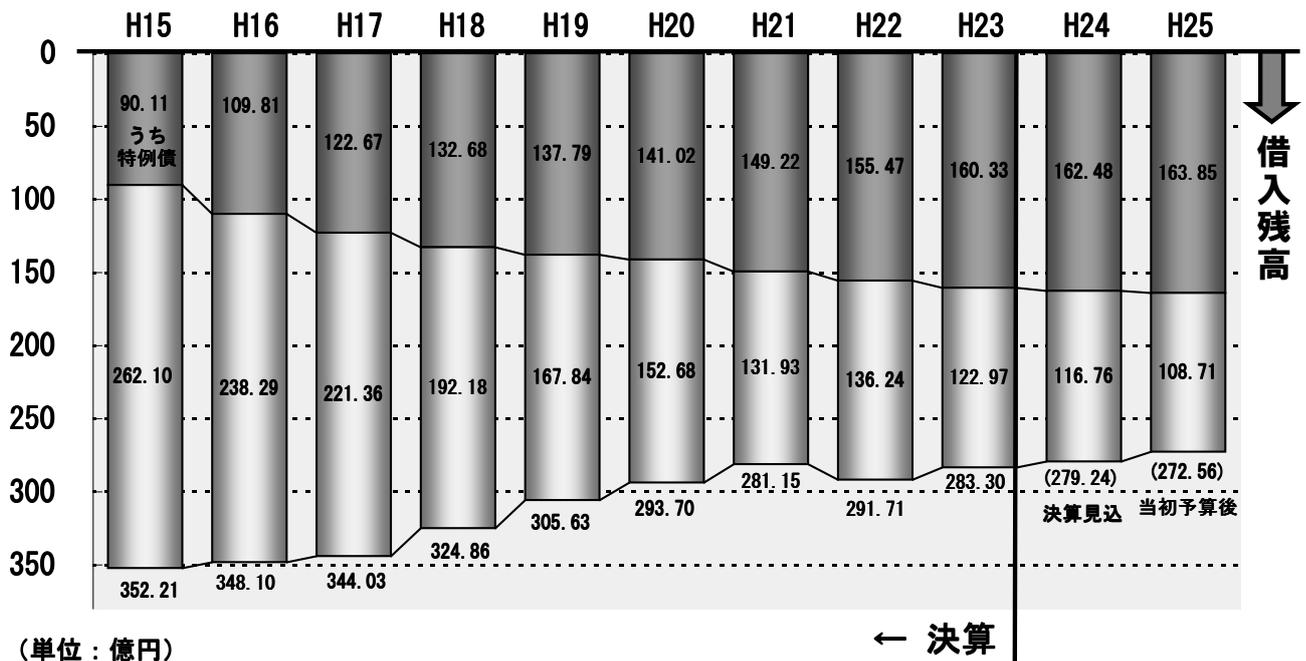
(1) 積立基金・市債の残高

① 基金残高の推移



※平成23年度までは決算数値、平成24年度は12月補正後数値、平成25年度は当初予算編成後数値

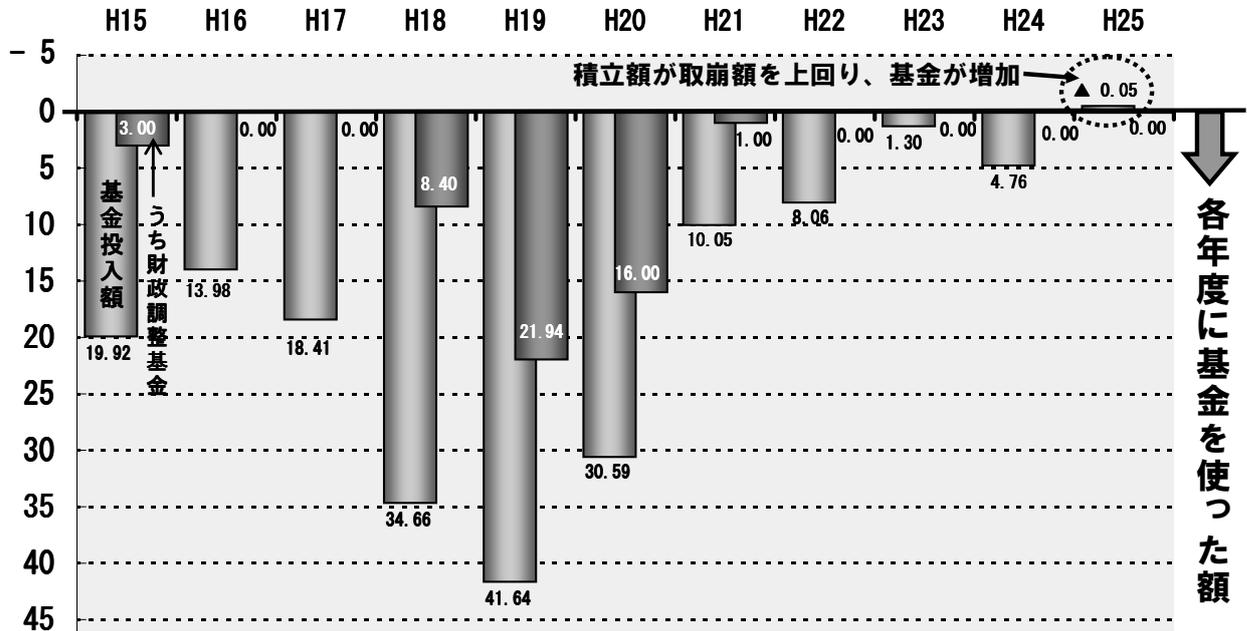
② 市債残高の推移



※平成23年度までは決算数値、平成24年度は決算見込み数値、平成25年度は当初予算編成後数値

(2) 基金投入・市債発行の状況

① 基金投入額の推移（当初予算ベース）



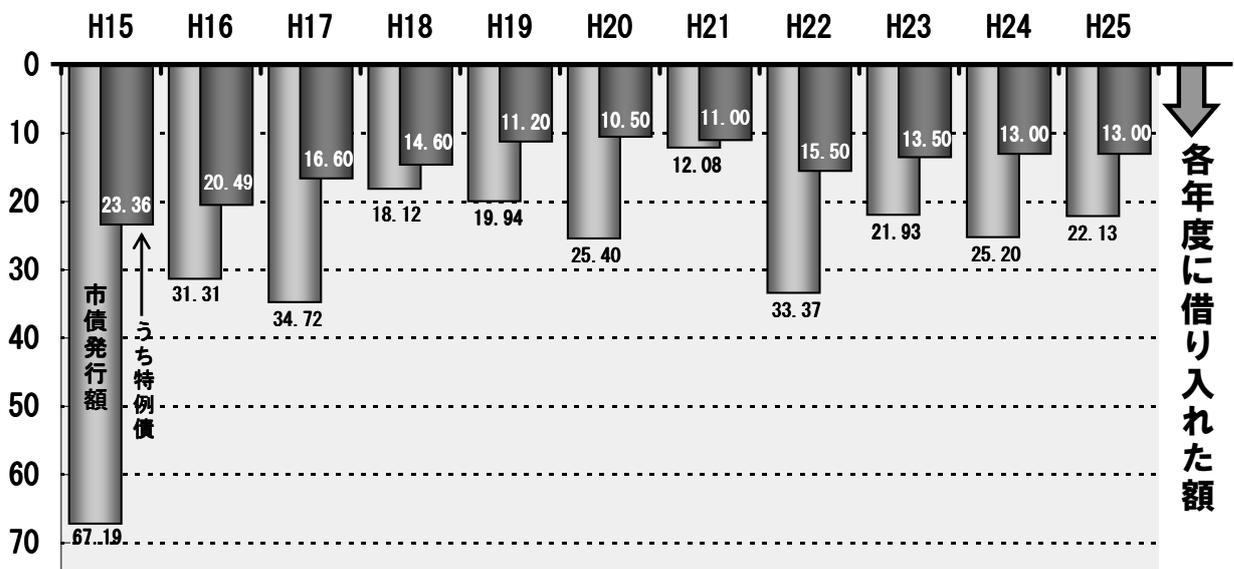
(単位：億円)

◆基金投入額 = 基金取崩額 - 基金積立額（前年度剰余金処分積立を除く）

※ H22年度の基金投入額は、定額運用基金（自然緑地等保全基金）からの積替（約8億円）を除く

※ H23年度の基金投入額は、定額運用基金（用品調達基金他）からの繰入（0.5億円）を除く

② 市債発行額の推移（当初予算ベース）

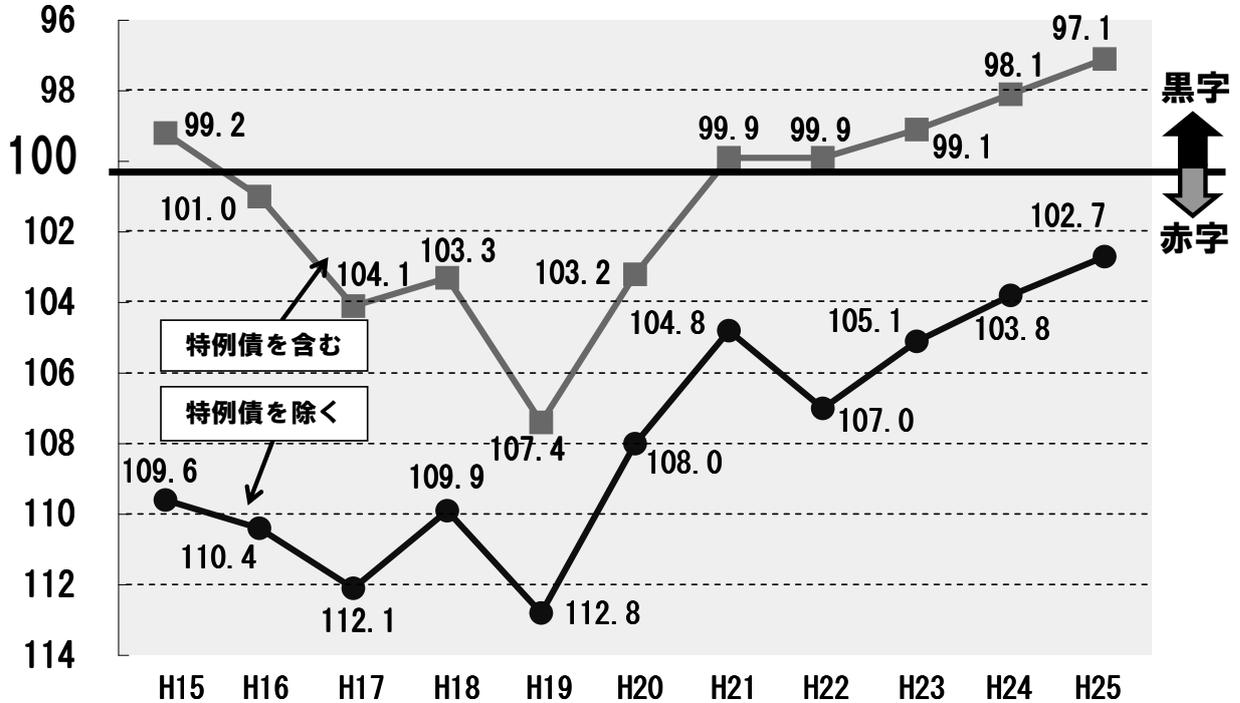


(単位：億円)

※平成16年度は、減税補てん債借換債（27.95億円）を除く

(3) 経常収支比率の状況（当初予算ベース）

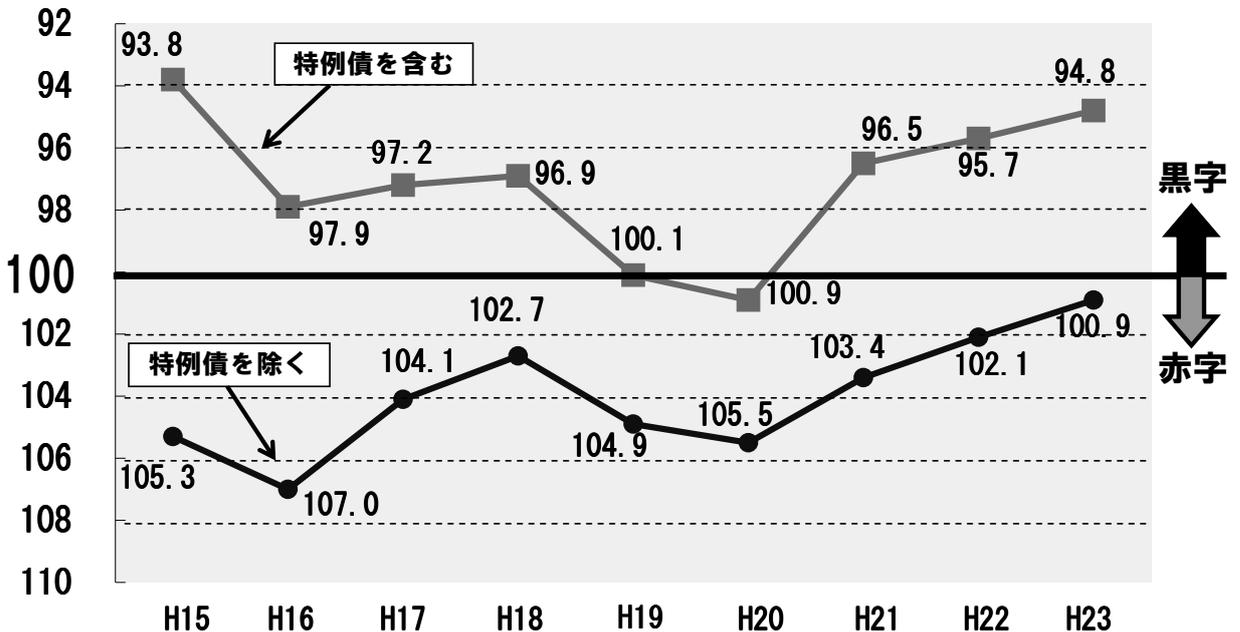
(単位：%)



◆特例債を含む経常収支比率(総務省が統計数値として用いる数値)
 市税等経常一般財源に、次の特例債を加算して計算した率
 ・平成18年度までは、臨時財政対策債及び減税補てん債を加算
 ・平成19～25年度は、臨時財政対策債を加算

(単位：%)

(参考) 決算の経常収支比率



平成25年度（2013年度）主要施策

平成25年度（2013年度） 主要施策

※予算額は当該主要施策を含む全体事業費で示しているため、主要施策に係る費用を上回る場合があります。

I 安心・支えあい最優先

1. 「災害に強い箕面」の実現

いつ起きるかわからない大地震に備え、家庭、地域、学校そして市などが様々な立場で防災体制を確認するため、毎年1月17日に全市一斉の防災訓練を実施します。

自治会など地域コミュニティの活動拠点となる公園15か所を「地域防災ステーション」として整備します。収納庫を設置し消火器やジャッキなど消火・救助用資器材を配備するとともに、市民の防災意識の向上を図ります。

災害時に地区防災委員会の活動拠点にもなる避難所について、各委員会のニーズをふまえ運営機能の充実を図ります。

また、木造住宅の耐震診断を無料化するとともに、耐震設計、耐震工事に必要な費用の一部助成を継続し、耐震化を大きく促進します。

さらに、豊かな山に囲まれた本市が抱える土砂災害の危険に対し、大阪府のハード面の対策とあわせ防災マップによる情報提供とハザードエリア表示による警戒避難体制の充実など、市独自のソフト面の対策を講じます。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・自治会など地域コミュニティの活動拠点となる公園15か所を「地域防災ステーション」として整備する。消火器やジャッキなどの消火・救助用資器材を配備するとともに、市民の防災意識の向上を図る。	60,713	総務部
・地区防災委員会の運営を支援し、全市一斉防災訓練を実施する。	4,683	総務部
・木造住宅の耐震診断を「無料化」する。また、耐震設計、耐震工事に必要な費用の一部助成を継続する。	28,232	みどりまちづくり部
・土砂災害について防災マップによる情報提供とハザードエリア表示による警戒避難体制の充実などソフト対策を講じる。	6,879	総務部

2. 市立病院における医療の充実

地域医療支援病院として地域医療の中心的な役割を担う市立病院は、市民に安全・安心な医療を提供します。

新年度はリハビリテーション科医、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の増員により、入院時から在宅まで一貫したリハビリテーション体制の充実を図ります。

MR I 装置（磁気共鳴画像診断装置）を2台に増設するとともに、内視鏡手術機器などを整備し、高度な手術や検査に対応する診療体制の充実を図ります。

経営面においては、「市立病院改革プラン」に基づき収益の向上に努め、前年度から1億2千万円の赤字を圧縮します。この結果、「市立病院改革プラン」策定から新年度までの4年間で約8億4千万円の赤字圧縮の達成となります。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・リハビリテーション科医など医療スタッフを増員するほか、MR I 装置を2台に増設、内視鏡手術機器などを整備し、診療体制を充実する。	473,060	市立病院
・「市立病院改革プラン」に基づき収益の向上に努め、前年度から1億2千万円の赤字を圧縮する。（「市立病院改革プラン」策定から新年度までの4年間で約8億4千万円の赤字圧縮を達成）	—	市立病院

3. 子宮頸がん等のワクチン接種と無料がん検診の継続

市民の健康づくりのため、きめ細かな検診などの環境整備に取り組みます。

新年度より、法定接種化される子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の3種のワクチン接種を無料で実施します。

また、がんの早期発見を行うため、府内で唯一実施している無

料がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん及び前立腺がん）を継続して実施します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・新年度より法定接種化される子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の3種のワクチン接種を無料で実施する。	311,007	健康福祉部
・府内唯一である、がん検診の無料実施を継続する。（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん及び前立腺がん）	323,949	健康福祉部

4. 消防・救急体制の充実

24時間365日体制で市民の生命・財産を守る消防・救急力を充実します。

豊能町との箕面北部地域をカバーする新・消防庁舎の共同整備や豊中市との35m級はしご車の共同運用など、近隣自治体との連携を進めます。

さらに、消防本部車両1台及び消防分団の消防ポンプ自動車2台（牧落分団、外院分団への貸与車両）のリニューアルや消防分団員の安全性を高める高機能防火衣の計画的配備（2か年で155着）等により、消防力の向上を図りつつ経費の圧縮も行います。

あわせて、高齢者世帯を重点とした住宅防火診断の実施、住宅用火災警報器の啓発活動を通じ、火災による罹災の低減、抑制をめざします。

また、気道確保をより安全かつ確実に行うことができるビデオ喉頭鏡（内視鏡の一種）をはじめ、救急用資器材の整備などにより救命力の強化を図ります。

さらに、現在使用している消防・救急無線がアナログ無線であり、その使用期限が平成28年5月31日までとなっていること

から、新年度中に消防・救急無線のデジタル化を完了します。

(平成24年度補正予算対応)

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・豊能町と共同で北部地域をカバーする新・消防庁舎の建て替えを行い、平成25年7月の完成をめざす。	59,514	消防本部
・豊中市が保有する35m級はしご車を共同運用することにより、緊急時の消防力を強化する。	4,613	消防本部
・消防本部の作業車1台、消防団に貸与する消防ポンプ自動車2台を更新、整備する。(牧落分団、外院分団への貸与車両)	33,071	消防本部
・軽量で防火性能が高く安全な防火衣を平成24・25年度の2か年で155名分配備する。	1,985	消防本部
・高齢者世帯を重点とした住宅防火診断の実施、住宅用火災警報器の啓発活動を通じ、火災による罹災の低減、抑制をめざす。	219	消防本部
・気道確保をより安全かつ確実に行うことができる内視鏡の一種であるビデオ喉頭鏡を導入し、救命力の強化を図る。	785	消防本部
・新年度中に消防・救急無線のデジタル化を完了する。	(H24補正予算)	消防本部

5. 歩行者・自転車の安全対策の強化・拡充

通学路の安全確保は最優先課題と考え、子どもたちが安心して通学できるよう、萱野東小学校や西小学校の通学路の歩道整備や、第四中学校東側の通学自転車道の整備、さらには桜や萱野での交差点カラー舗装や路面標示など道路の安全対策を強化します。

また、プロのスタントマンが交通事故をリアルに再現することで、中学生に事故の「怖さ」を体感させ、交通ルールを守る大切さや無謀運転の危険性を学ばせるスケアード・ストレートによる自転車安全教室を、新年度は中学校2校で実施(中学校在学中に

必ず一度は受講するサイクルで実施) します。あわせて、箕面警察署による自転車安全啓発などを強化します。

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・第四中学校東側に、自転車と歩行者の専用道路を新設し通学時の安全を確保する。	29,610	みどりまちづくり部
・萱野東小学校や西小学校の通学路の歩道整備、桜や萱野での交差点カラー舗装や路面標示など道路の安全対策を強化する。	111,076	みどりまちづくり部
・プロのスタントマンが事故を実演するスクエアード・ストレートを新年度は中学校2校で実施する。(中学校在学中に必ず一度は受講するサイクルで実施)	946	総務部

6. 防犯灯のLED化の促進

夜道の安全・安心を守るために自治会が設置されている防犯灯について、節電と維持費削減のためのLED化を促進します。

平成26年度までの期間限定で自治会の防犯灯改修に対する補助率を90%に大幅拡大したところ、平成24年度にLED化率75%を達成したため、新年度中のLED化率100%をめざすとともに、新設・増設も促進します。

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・平成26年度までの期間限定で自治会のLED防犯灯の改修に対する補助率を大幅拡大する。平成24年度にLED化率75%を達成したことから、新年度中のLED化率100%をめざすとともに、新設・増設も促進する。	41,800	人権文化部

Ⅱ 子育てしやすさ日本一

1. 子どもの医療費助成の大幅拡大

子どもたちの健康を守るため、子どもの医療費助成制度について、現在の助成制度では通院は「小学校入学前まで」、入院は「小学校卒業まで」でしたが、4月からはこれを入院・通院とも「中学校卒業まで」に大幅拡大します。かつ、全ての対象年齢において所得制限は設けないこととします。この拡大により全国でもトップクラスの水準(府内市(政令市を除く)では初めて)を実現します。

また、府から権限移譲を受け、家庭保育が困難なため入院する未熟児の医療費助成を行います。

事業内容	予算額(千円)	所管部局
・子どもの医療費助成の対象を入院・通院とも「中学校卒業まで(所得制限なし)」に大幅拡大し、全国でもトップクラスの水準(府内市(政令市を除く)では初めて)を実現する。	415,092	市民部
・家庭保育が困難なため入院する未熟児の医療費助成を行う。	10,035	市民部

2. 小児インフルエンザ予防接種への助成制度創設

任意接種のため今は全て個人負担となっているインフルエンザの予防接種について、地域で小児インフルエンザの流行を抑制するとともに重症化を予防するため、府内で実施例の少ない小児インフルエンザ予防接種への助成制度を創設し、その費用の一部を助成します。

事業内容	予算額(千円)	所管部局
・地域で小児インフルエンザの流行を抑制するとともに重症化を予防するため、府内で実施例の少ない小児インフルエンザ予防接種への助成制度を創設する。	19,339	健康福祉部

3. 子育て支援の充実

待機児童ゼロプランに基づき、平成24年4月の彩都での保育所開設や平成25年4月の箕面森町での保育所開設などを進め、プランを上回る415名の定員増を実現しました。

また、早朝、夕方や夏休みなどの長期休業中も預かり保育を行う「子育て応援幼稚園」に通う園児の保護者に対しての市独自の大幅支援を実施するなど、私立幼稚園における長時間保育の拡大や支援教育の充実を図ってきました。

これらの施策が功を奏した結果、3歳児以上の待機児童はほぼ解消する一方で、待機児童は0～2歳児へ集中しており、今後は0～2歳児の待機児童対策を重点的に実施する必要があります。

そこで、「子育て応援幼稚園」に通う園児の保護者及び「子育て応援幼稚園」への大幅支援は継続するとともに、平成26年度に市立病院の旧看護師寮の跡地での、0～2歳児の乳児保育に重きをおいた定員100名規模の認可保育所の開設に向け、整備運営を行う民間法人を支援します。

あわせて、緊急対策として実施していた、認可外保育施設を利用する3歳未満児の保護者等への補助金について、新年度も継続して実施します。

また、市立保育所の民営化の推進として、箕面保育所の平成26年4月の民営化に向け準備を進めます。

4月にオープンする「稲ふれあいセンター」内に3か所目となる子育て支援センター機能を整備するほか、保育環境や学習環境の向上、子どもの安全・安心活動などを目的とする事業の財源に充てるため「未来子ども基金」に5千万円積み立てます。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・4月に箕面森町で定員70名規模の保育所を新規開設する。加えて、平成26年度オープンをめざして、市立病院の敷地に定員100名規模の新たな保育所を整備する。	343, 322	子ども部
・早朝、夕方や夏休みなどの長期休業中も預かり保育を行う「子育て応援幼稚園」に通う園児の保護者等への市独自の大幅支援を継続し、私立幼稚園における長時間保育の拡大と支援教育の充実を図る。	424, 726	子ども部
・0～2歳児の待機児童解消に向けた取り組みと子ども・子育て新システムの移行に向け、待機児童ゼロプランの見直しを進める。	—	子ども部
・待機児童解消の緊急対策として、認可外保育施設を利用する3歳未満児の保護者等への補助金を継続する。	1, 836	子ども部
・平成26年度の箕面保育所の民営化に向け、運営法人に移行支援の補助金を交付するとともに引継ぎを行う。	7, 651	子ども部
・萱野、箕面の2か所に加え、4月にオープンする「稲ふれあいセンター」の中に、子育て支援センター機能を整備する。	2, 672	子ども部
・保育環境や学習環境の向上、子どもの安全・安心活動などを目的とする事業の財源に充てるため「未来子ども基金」を積み立てる。	50, 001	子ども部

4. 小中学校の全9学年を対象とした学力・体力・生活状況総合調査の実施

これまでの全国学力・学習状況調査では、対象が小学校6年生と中学校3年生の2学年に限られており、毎年、調査対象となる子どもたちが異なるため、一人ひとりの成長に伴う変化を把握できないという課題がありました。

そこで、本市が積極的に進めている小中一貫教育の方針を十分にふまえ、小中学校の全9学年の全児童・生徒を対象とした学

力・体力・生活状況総合調査（箕面子どもステップアップ調査）を継続実施することにより、子どもたち一人ひとりのデータを蓄積し、各学年における一人ひとりの学力状況等を把握するとともに、教員の指導力、授業力を高め、翌年度の各学年の授業に反映します。9年間を通して、子どもたちの学力・体力の向上と豊かな心の醸成に、継続してきめ細かく取り組んでいきます。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・小中学校の全9学年の全児童・生徒を対象とした学力・体力・生活状況総合調査（箕面子どもステップアップ調査）の継続実施により、子どもの成長にきめ細かく対応した教育を実現する。	22,141	教育推進部

5. 中学校給食の実施

学校給食は、子どもたちの望ましい食習慣の形成や社会性を身につける、人間関係の育成・食のあり方などを考える食育の中心的役割を担うものです。平成25年度2学期(8月末)から、すでに給食を開始しているとどろみの森学園と彩都の丘学園に加え、第一中学校から第六中学校までの6校においても、自校調理方式、完全給食かつ全員給食による中学校給食を実施します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・全中学校で、自校調理方式、完全給食（※1）かつ全員給食（※2）による給食を、2学期(8月末)から開始する。	78,001	教育推進部
・給食の安全性を確保するため、保育所、小中学校の給食を対象とした放射性物質の測定検査を継続する。	462	教育推進部 子ども部
・「箕面食ナビブック」の小学校5,6年生への配布、食育教室などを実施し、望ましい食習慣づくりの啓発、普及を図る。	1,299	健康福祉部

※1 完全給食とは、ご飯などの主食、主菜（おかず）とミルクがついた給食

※2 全員給食とは、生徒全員が同じものを一緒に食べる給食

6. 教育環境の整備

バリアフリー化を推進するため、2学期より第五中学校においてエレベータを稼働します。これにより小中学校22校のエレベータ整備が完了します。（府内では最速、全国でもトップレベルのスピード完了となります。）

さらに箕面森町の人口増加にあわせ、とどろみの森学園において、増築工事を行い普通教室等11教室を整備するなど、施設面での教育環境の整備を図ります。

また、教育委員会と学校現場が相互に意思疎通を深め、学校教育の諸課題に対する共通理解のもと、一丸となって実情に即した教育施策を展開する必要があります。

学校支援を強化・充実するとともに、管理職不足に備えた登用体制を整備し、持続性ある学校経営体制の確立が必要と考え、小学校2校の校長・副校長に行政職員を登用し、学校の運営体制を強化するなど、組織面での教育環境の整備を図ります。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・2学期から第五中学校のエレベータを稼動する。これにより全小中学校(22校)のエレベータ整備が完了する。(府内では最速、全国でもトップレベルのスピード完了)	49,992	教育推進部
・箕面森町の人口増加にあわせ、小中一貫校「とどろみの森学園」を増築し、11教室を整備する。	369,472	教育推進部
・小学校2校の校長・副校長に、行政職員を登用し、学校の運営体制を強化する。	—	教育推進部
・小学校及びとどろみの森学園のネットワークシステムを再構築し、教職員用に1人1台のコンピュータを再整備する。	30,817	教育推進部

7. 学校施設を活用した放課後の居場所の確保

小学校において、学童保育の児童をはじめとした全児童を対象に、放課後や土曜日、長期休業中に、学力コース・体力コース・交流コースなど、児童の状況を勘案して学校が主体的に策定した様々な活動プログラムを、子どもたちが自由に選択して参加する「新放課後モデル事業」を小学校2校で先行スタートします。

平成25年度のモデル事業の中で、活動プログラムの内容や利用料金等を検証し、平成26年度以降、全小学校での「新放課後事業」の実施に向け検討を行います。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・放課後等に、様々な活動プログラムを子どもたちが自由に選択して参加する「新放課後モデル事業」を小学校2校で先行スタートする。	43,368	教育推進部

Ⅲ 緑・住みやすさ最先端

1. 箕面市版の「農業公社」の設立など緑豊かな環境の保全

箕面の特徴である「みどり」には、山間部の「みどり」、山麓部の「みどり」、山から連なる市街地の「みどり」があり、これらの貴重な「みどり」を守り育てるため様々な施策を講じています。

農地は、都市の中にあって潤いと安らぎを与え、環境保全、景観、教育、防災など多面的な要素を持っています。

“活きた農地”を持続・保全するため箕面市版の「農業公社」を設立します。新年度は設立準備のため、市の内部組織として「農業公社」を設け、農家に研修生を派遣し自ら耕す新たな農業者を育成するほか、農業が「業」とし成り立つ仕組みの構築に取り組みます。

営農環境の整備のため、新稲地区において平成22年度より地元農業者等による「箕面市新稲地区農空間保全協議会」が実施してきた農道整備に対し、継続して補助金を交付します。

市街地では、緑豊かなまちなみづくりを実現するため、民有地の緑を守り育てる市民主体の活動を支援します。

また、山林のナラ枯れ被害対策を継続して実施します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・“活きた農地”を持続・保全するため箕面市版の「農業公社」を設立する。新年度は設立準備のため、市の内部組織として「農業公社」を設け、農家に研修生を派遣し自ら耕す新たな農業者を育成するほか、農業が「業」として成り立つ仕組みの構築に取り組む。	805	みどりまちづくり部
・地元農業者等による「箕面市新稲地区農空間保全協議会」が実施する農道整備に対し、継続して補助金を交付する。	3,900	みどりまちづくり部
・市街地における民有地の緑を守り育てる市民主体の活動を支援する「まちなかのみどり支援事業」を拡充する。	4,741	みどりまちづくり部
・山林のナラ枯れ被害の拡大を防ぐため、被害木の伐倒・くん蒸処理を継続して行う。	3,285	みどりまちづくり部

2. PFIによる箕面駅前第一駐車場・第二駐車場・駐輪場のリニューアル

阪急箕面駅前周辺の活性化と利便性の向上のため、老朽化が進み、景観面においても大きな課題がある箕面駅前第一駐車場と駐輪場を一体的に建て替え、人の流れを呼び込める商業施設も併せた複合施設の再整備と、箕面駅前第二駐車場の大規模改修をPFI手法により実施します。

新年度はPFI事業者を決定し、設計作業に着手します。

これにより、民間の資金、経営能力及び技術力を活用して施設の維持管理及び運営を一体的に行い、最終的には市の財政負担無しで建設・運営を実現します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・阪急箕面駅前周辺の活性化と利便性の向上のため、老朽化した箕面駅前第一駐車場と駐輪場の建替えと、第二駐車場の大規模改修をPFI手法により実施する。新年度は、PFI事業者を決定し設計業務に着手する。	9,122	地域創造部

3. 桜井駅前地区の再整備

阪急桜井駅前においては、駅前地域の再生を進めるとともに、地域資源を活かした地域密着型の歩いて暮らせるまちづくりをめざし、駅前周辺地区の将来像を示す地区再生計画を策定するほか、地権者との協議と技術的支援を進め、早期の駅前再整備を実現します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・ 阪急桜井駅前周辺の将来像を示す地区再生計画を策定するほか、地権者との協議と技術的支援を進め、早期の駅前再整備を実現する。	3, 9 1 6	地域創造部

4. 北大阪急行線の延伸と周辺のまちづくり

北大阪急行線の延伸について、国の緊急経済対策（平成24年度補正予算）による大幅な支援措置などの活用により合計約19億7千万円を予算化して事業化を進め、平成26年度の工事着手、平成30年開通をめざします。

新年度は大阪府・鉄道事業者との事業化合意をめざし、都市計画決定や事業許可の手続き等を行うとともに実施設計に着手するほか、都市計画道路萱野東西線の整備を進めます。また、北大阪急行線の延伸にかかる市負担を平準化するため、「交通施設整備基金」へ4億5千万円の積立てを行います。

（仮称）新箕面駅周辺のまちづくりについて、市街地の北側に連なる北摂山系の山なみや東西に広がる豊かな田園風景と共存し、鉄道の利便性と穏やかな風景を兼ね備えた箕面らしいまちづくりを進めます。

（仮称）箕面船場駅周辺のまちづくりについて、大阪船場繊維卸商団地協同組合と連携し、核となる施設の一つとして、「国立

循環器病研究センター」の誘致に取り組みます。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・国の緊急経済対策(平成24年度補正予算)による大幅な支援措置などの活用により、合計約19億7千万円を予算化して事業化を進め、平成30年開通をめざす。新年度は大阪府・鉄道事業者との事業化合意をめざし、実施設計に着手するほか、都市計画道路萱野東西線の整備を進める。	1,522,841 (H24補正予算)	地域創造部
・北大阪急行線の延伸にかかる市負担を平準化するため、「交通施設整備基金」への積立てを行うなど、北大阪急行線の延伸に取り組む。	451,163	地域創造部

5. オレンジゆずるバスの本格運行

3年間の実証運行の成果を踏まえ、5月から平日（月曜日～土曜日）の本格運行を開始します。併せて、日曜日・祝日は買い物・レジャーを中心とした新たなルート・ダイヤの実証運行をスタートします。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・3年間の実証運行の成果を踏まえ、5月から平日（月曜日～土曜日）の本格運行をスタートする。また、新たに日曜日・祝日は買い物・レジャーを中心とした新ルート・ダイヤの実証運行をスタートする。	68,365	地域創造部

6. 新たな住民交流の核となる拠点施設のオープン

新しいまち・小野原地区の拠点として、市内7つめの図書館となる「小野原図書館」、国際交流の核となる「多文化交流センター」などの複合施設を5月にオープンします。

旧清掃工場跡地に、高齢者の活動の場「新・松寿荘」や子育て世代の「子育て支援センター」機能を含む「多世代交流センター」、養護老人ホーム「ゆずの郷」（新・永寿園）などの複合施設

「稲ふれあいセンター」を4月にオープンします。

また、クエルナバカ市（メキシコ）との国際友好都市提携を結んでから10年の節目を迎えることから、記念事業を実施します。

事業内容	予算額（千円）	所管部局
・新しいまち・小野原地区の拠点として、市内7つめの図書館となる「小野原図書館」、国際交流の核となる「多文化交流センター」などの複合施設を5月にオープンする。	67,086	人権文化部 生涯学習部 健康福祉部
・旧清掃工場跡地に、高齢者の活動の場「新・松寿荘」や子育て世代の「子育て支援センター」機能を含む「多世代交流センター」、養護老人ホーム「ゆずの郷」（新・永寿園）などの複合施設「稲ふれあいセンター」を4月にオープンする。	34,600	健康福祉部
・箕面市・クエルナバカ市（メキシコ）国際友好都市提携10周年を迎え、記念事業を実施する。	200	人権文化部

7. 市民サービスのさらなる向上

身近で便利な市民サービスの向上をめざし、窓口業務の充実や支払い方法の多様化を進めます。

窓口業務に関しては、5月からパスポート発給業務をスタートするほか、来年2月から市役所窓口業務の土曜営業をスタートします。さらに証明発行窓口として、桜ヶ丘図書館及びらいとぴあ21は4月から、小野原図書館は5月から、それぞれ住民票の写しや印鑑登録証明の交付を可能にします。

また、軽自動車税及び国民健康保険料については5月から、上下水道料金については10月から、それぞれ自宅でのインターネットを利用したクレジット払いをスタートします。介護保険料については6月からコンビニエンス・ストアでの支払いがスタートします。

国民健康保険被保険者証について、診療時の利便性を高めるため、現行の世帯証を1人1枚の個人カードにします。あわせて高齢受給者証についても同サイズの個人カードにします。

サービス向上と経費の削減をめざし、市営住宅の管理業務に指定管理者制度を導入します。これにより市直営時に比べて年間約1,800万円の経費削減効果を見込んでいます。

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・5月から市役所(本庁)でのパスポートの発給業務をスタートする。	79,265	市民部
・来年2月から市役所窓口の土曜日営業をスタートする。	3,533	市民部
・軽自動車税及び国民健康保険料については5月から、上下水道料金については10月から、それぞれ自宅でのインターネットを利用したクレジットカード払いをスタートする。	610	総務部 市民部 上下水道局
・介護保険料について、24時間コンビニエンス・ストアでの支払いをスタートします。	651	市民部
・桜ヶ丘図書館、らいとぴあ21、小野原図書館の3か所で、住民票の写しや印鑑登録証明の交付を可能にする。	19,692	市民部
・国民健康保険被保険者証、高齢受給者証を個人カードにする。	2,247	市民部
・市営住宅の管理業務に指定管理者制度を導入し、サービスの向上と経費の削減を図る。(経費削減効果は年間約1,800万円)	25,823	みどりまちづくり部

8. 橋梁の長寿命化と落橋対策の実施など都市基盤の整備

道路は、日常はもちろん非常時にも市民の暮らしに欠かせないものです。特に道路橋についてはできるだけ長く使用し、今後必要となる維持管理費用を平準化するため市内の7つの道路橋の長寿命化対策を実施するとともに、地震時の被害を最小限に食い止

めるため落下防止対策を実施します。

道路補修工事については、「事故発生件数」「通学路指定の有無」「交通量」などの客観的指標に基づいて工事箇所を優先順位をつける仕組みを構築し、効果的かつ効率的に工事を実施していきます。

彩都西部地区と市街地を結ぶ幹線道路である国文都市4号線のうち、都市再生機構が整備する区間の費用の一部を負担します。

また、公園については、国文都市6号公園の整備を進めるほか、まちなかで子どもたちが安全・安心に過ごせる環境として、公園の再生・活性化を図ります。

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・道路橋をできるだけ長く使用し、今後必要となる維持管理費用を平準化するため道路橋の長寿命化対策を進める。あわせて、地震時の被害を最小限に食い止めるため落下防止対策を実施する。	8,768	みどりまちづくり部
・客観的指標に基づいて道路維持補修工事箇所を優先順位をつける仕組みを構築し、効果的かつ効率的に工事を実施していく。	214,091	みどりまちづくり部
・彩都西部地区と市街地を結ぶ幹線道路である国文都市4号線のうち、都市再生機構が整備する区間の費用の一部を負担する。	519,435	みどりまちづくり部
・彩都の丘学園の子どもたちの提案に基づき、平成25年度末の完成をめざし国文都市6号公園を整備する。	240,000	みどりまちづくり部
・まちなかで子どもたちが安全・安心に過ごせる環境として、公園の再生・活性化を図る。	39,816	みどりまちづくり部

9. 上下水道の耐震化、長寿命化の推進

市民生活を支える上下水道については、「上下水道事業経営改革プラン」に基づき着実な経営改革を進め、水道事業で約1億3

千万円の黒字、下水道事業で約1億8千万円の黒字を見込んでいます。

管路の耐震化・更新事業を着実に実施していきます。水道については、老朽化した水道管の更新や施設の耐震化を進める施設・管路の更新計画を平成26年度までの2か年で策定します。下水道については、国の社会資本整備総合交付金を活用し、地震対策緊急整備事業として瀬川萱野污水幹線の耐震化補強工事を実施するほか、下水道の長寿命化計画を策定します。

今後、施設・管路の更新計画及び長寿命化計画の策定を通じて、上下水道にかかる建設改良費の精査を行い、さらなる料金値下げなどの利用者還元策や経営体制について検討を進めます。

新年度より、上下水道管路管理システムを導入し、漏水、断水の際のシミュレーションを容易にするなど、緊急対応力や組織全体の技術力を底上げします。

事業内容	予算額 (千円)	所管部局
・「上下水道事業経営改革プラン」に基づき着実な経営改革を進め、水道事業で約1億3千万円の黒字、下水道事業で約1億8千万円の黒字を見込む。	—	上下水道局
・水道について、老朽化した水道管の更新や施設の耐震化を進める施設・管路の更新計画を策定する。下水道について、瀬川萱野污水幹線の地震対策緊急工事を実施するほか、下水道施設の長寿命化計画を策定する。	558,715	上下水道局
・上下水道管路管理システムを導入し、漏水、断水の際のシミュレーションを容易にするなど、緊急対応力や組織全体の技術力を底上げする。	—	上下水道局